

越境する精霊たち

—マダガスカル・イメリナ地方の聖地をめぐる呪術宗教実践の人類学的研究—

平成 26 年入学

派遣先国：マダガスカル共和国

江端 希之

キーワード：聖地の生成と発展、王霊・精霊祭祀の社、宗教間の葛藤と融和、宗教実践

対象とする問題の概要

本研究は、イメリナ地方（メリナ人居住地域）におけるドゥアニ doany⁽¹⁾と呼ばれる「王霊・精霊祭祀の社（やしろ）」を対象としている。このドゥアニ信仰は、憑依儀礼の一種チュンバ tromba を重要な媒介としながら、民族や国境を越えて、西インド洋の島々に広がっている⁽²⁾。

今回の調査は、前回に引き続いて、ドゥアニ信仰の中心的聖地のひとつアンブヒマンガ⁽³⁾の周辺で行った。アンブヒマンガ周辺に位置する 5 つの聖地⁽⁴⁾のうち、マンガベ Mangabe の丘に焦点を定めた。聖地としてのマンガベは 3 社のドゥアニから構成される⁽⁵⁾が、これらの中で最も中心的なドゥアニ、ドゥアニ・アンジアチブング Andriantsivongo⁽⁶⁾の定点観測を行った。

研究目的

マンガベは、1960 年のマダガスカル独立後のある時期から急速に聖地として発展し、今ではマダガスカル有数の聖地の一つとして、国内外から巡礼者が詰め掛けるほどに成長した。そこで今回の調査では、マンガベが聖地として生成・発展してきた歴史的経緯について明らかにすることを目的とした。そこで、「マンガベの聖地化」に重要な役割を果たした宗教的職能者ピアンジュ mpiandry⁽⁷⁾に着目し、聞き取り調査を行った。

フィールドワークから得られた知見について

現在、ドゥアニ・アンジアチブングの周囲には集落（マンガベ集落）が形成されているが、この集落の住人は全て、ドゥアニのピアンジュとその関係者（親戚）である。マンガベには元々アンジアチブングの墓しかなかったが、当時のピアンジュの活躍によって崇拝者が増加し始めた。政治家の支持を得たことで 1980 年代から集落が形成され始め、有力な信者による支援で 1994 年に社殿が完成し、2004 年に牛の供儀場が整備され、現在の聖地としての威容が整えられた。このように、何人かのキーパーソンの活躍によって、マンガベが段階的に整備・発展してきたことが明らかになった。

キリスト教との葛藤と融和の関係性の中で、マンガベが生成されてきたことも明らかになった。そのような「キリスト教との共存と競合の諸相」は、ドゥアニにおける日々の宗教実践の中でも観察されるものだった。

2015 年 8 月に首都近郊で起きた有名ドゥアニ 2 社への連続放火事件⁽⁸⁾をきっかけに、マンガベも含む首都近郊の有名ドゥアニのピアンジュらが集められ、政府の役人を交えての会合が開かれた。今後も政府が主催するピアンジュらの会合が持たれる予定という。これをきっかけに、今後ドゥアニ信仰が組織化されていくとするならば、宗教学的見地からしても注視すべき動向といえ

るだろう。

考察と今後の展開

1994年に社殿・境内が整備されたことを受けて、ドゥアニ・アンジアチブングは行政に税金を納めなければならなくなった。しかし、その見返りとして、マンガベのドゥアニが行政から「公認」されるということがあった。また、マンガベの丘に隣接するアンブヒマンガの丘が2001年に世界文化遺産に指定され、アンブヒマンガ観光局 OSCAR から、マンガベも観光客を集める「文化遺産」として認定された。このように、マンガベに対して国家的権威が付与されたことも、聖地としてのマンガベが生成・発展するのを支える「正統性」として作用したのではないだろうか。

ドゥアニは、禁忌（ファディ *fady*）を犯さない範囲なら、崇拝行為や憑依儀礼において自由が利くという懐の広さを持っている。マンガベを始めとするドゥアニ信仰が興隆してきた理由の一つは、ドゥアニという場が雑多な民間信仰を受け入れる「器」として機能してきたためではないかと思われた。今後は、この仮説が適切なのかどうかを確かめるべく、調査研究を深めていきたい。このことが、ドゥアニ信仰が民族・国境を越えて西インド洋の島々に広がっている理由を明らかにすることにも繋がると考えるからである。

注

(1) ドゥアニという用語は本来サカラヴァ人のもので、元タイメリナ地方では使われていなかった。しかし現在は、メリナ人の王霊・精霊祭祀の崇拝場所も全てドゥアニと総称されている。

(2) マダガスカルを中心に、レユニオン、モーリシャス、コモロ、マヨット、セーシェルといった島々

(3) アンブヒマンガは、メリナ王国（16世紀～1897年）の王宮跡や王墓が建つ「聖なる丘」を中心に、周辺の複数の聖地や集落から構成されている（Scott, 2003）。首都アンタナナリヴの北部近郊に位置し、2001年にはユネスコの世界文化遺産に指定された。

(4) Mangabe、Ankazomalaza、Ambatondradama、Mahazaza、Amboatany の5か所。それぞれの聖地は、固有名を持つ複数のドゥアニから構成される。

(5) ドゥアニ・アンジアチブング *Andriantsivongo*、ドゥアニ・ラスアラヴァブル *Rasoalavavolo*、ドゥアニ・アンジアマナリナ *Andriamanalina* の3社。

(6) ドゥアニ・アンジアチブング *Andriantsivongo* は、最も名高いメリナ王・アンジアナンプイニメリナ *Andrianampoinimerina* の占星術師（パナンジュ *mpanandro*）であるアンジアチブングを祀る。アンジアチブングは、18世紀ごろに活躍した、メリナ王国史上最も名高い占星術師。その他、ラスアラヴァブル *Rasoalavavolo*（アンジアチブングの妻で人魚）、アンジアテンドゥ *Andriantendro*（弟）、ラマナリナリヴ *Ramanalinarivo*（母）なども祀られている。

(7) 著名なドゥアニには、ドゥアニを維持・管理し参拝者を迎える役目の「ピアンジュ *mpiandry*」と呼ばれる番人がいる。

(8) 2015年8月、アンブチマンザカ *Ambohitrimanjaka* とアンブジャチム *Ambohidratrimo* という有名ドゥアニ2社が、キリスト教セクトの放火により全焼した。

ドゥアニ・アンジアチブングのようす



社殿のようす



正面入口



参拝者向けの売店



境内のようす



参拝者の宿泊施設



境内の兵士の墓



供儀場から社殿を臨む



マンガベ集落（山火事中）



ピアンジュらと筆者（中央）



動物供儀について指示を出すピアンジュ（奥）



ドゥアニ正門



犠牲を捧げる参拝者ら

ドゥアニ・ラスアラヴァブルのようす



境内を掃き掃除するピアンジュ



ピアンジュとその家族

キリスト教との葛藤と融和



キリスト教徒による反ドゥアニの落書き



ドゥアニに祀られたキリスト教の図像

ドゥアニへの放火事件



アンブジャチムの社殿（放火前）



過激派キリスト教徒による放火で全焼した社殿

参考文献

- Blanchy, Sophie, Françoise Raison-Jourde, Malanjaona Rakotomalala (eds.) 2001. *Madagascar: Les ancêtres au quotidien, Usages sociaux du religieux sur les Hautes - Terres Malgaches*, L'Harmattan.
- Blanchy, Sophie, Rakotoarisoa Jean-Aimé, Beaujard, Philippe, Radimilahy Chantal (eds.) 2006. *Les dieux au service du peuple : itinéraires religieux, médiations, syncrétisme à Madagascar*, Karthala.
- Bloch, Maurice 1993. *Placing the dead: tombs, ancestral villages and kinship organization in Madagascar*, Waveland Pr Inc.
- Estrade, Jean-Marie 1985. *Un culte de possession à Madagascar: le tromba*, L'Harmattan.
- Graeber, David 2007. *Lost people: magic and the legacy of slavery in Madagascar*, Indiana University Press.
- Lala Raharinjanahary, Noel J. Gueunier 2006. L'autodafé d'un doany, in Karine Blanchon (ed.) *Images contemporaines dans les sociétés de l'océan Indien occidental*, Études océan Indien, pp. 151–181.
- Scott, Margaret 2003. *Change, continuity, and cultural identity : as traced through the people and place of Ambohimanga, Madagascar*, University of Oxford
- 江端希之 2015. 「神々探訪 イメリナのドゥアニ巡り」, マダガスカル研究懇談会編『マダガスカル研究懇談会ニュースレター SERASERA33』 pp. 24-27
- 花渕馨也 2006. 「海を渡るトゥンバーインド洋西域における精霊憑依」, 眞島建吉編『インド洋の十字路 マダガスカル』 pp. 106-116, 葫蘆舎